



神戸大学校友会ニュースレター

神戸大学校友会
KU-Alumni

いつも校友会の活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

— インフォメーション —

【1】トピックス

- (1) 第18回神戸大学ホームカミングデイを開催
- (2) 第21回留学生ホームカミングデイを開催
- (3) 国際交流パーティー『ONE KOBE FAMILY』を開催
- (4) 神戸大学クラブ講演会のご報告
- (5) 神戸大学 学生広報誌『door』Vol.02 を発行
- (6) 壱井達也さん、フィギュアGP3位、初の表彰台

【2】お知らせ

- (1) 第3回日印大学等フォーラムに参加
- (2) 医学研究科からレモネードスタンド活動を通じた寄附に感謝状を贈呈
- (3) 駐日サウジアラビア王国大使一行が訪問
- (4) 神戸大学×関西電力 SDGs 連続講座 2024「ゼロカーボン社会の実現にむけて—エネルギーの今と未来を考える」第2回大飯発電所の現地見学を開催
- (5) 神戸医療産業都市一般公開を開催
- (6) Forking 株式会社と神戸大学による「スポットワークにおける個人の成長やエンゲージメント向上を目的としたゲーミフィケーション等の有用性」に関する産学連携プロジェクトが始動
- (7) 「第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト」 最終選考会を開催
- (8) 令和6年度神戸大学高度専門研修「大学経営人材育成セミナー」を開催
- (9) 第35回山口誓子学術振興基金公開講演会を開催

【3】研究ニュース

- (1) 寄生虫の「延長された表現型」に対する進化的トラップの可能性
- (2) 即興演奏とは本当に即興なのか？
- (3) プロポリス主成分の微生物生産における世界最高値を10倍以上更新
- (4) 海面上昇対策としての南極ジオエンジニアリング：そのガバナンス上のリスクを解明

- (5) MRI 画像で肝細胞癌内の免疫環境の予測が可能
- (6) 株式会社ジャパンディスプレイと共同開発、新医療機器「SOLTIMO-M」を発表
- (7) ゲノム解析により褐藻の進化の歴史を明らかに
- (8) 冬季の常緑針葉樹の光合成調節に関わるタンパク質を発見

【4】インタビュー

- (1) 英語スピーチコンテスト 日本一の称号
- (2) 女子応援団長 1年間のフィナーレ

【5】フィーチャー

- (1) 次世代ハザードマップで災害対応の社会変革を
－震災 30 年シリーズ④【防災情報技術】
- (2) 災害による人口減少を見越した復興のあり方を探る
－震災 30 年シリーズ⑤【空間経済学】
- (3) 子どもたちの命を守る防災教育のあり方とは
－震災 30 年シリーズ⑥【防災教育】
- (4) 地域の歴史を掘り起こし、災害文化のアップデートを
－震災 30 年シリーズ⑦【歴史学】
- (5) 巨大地震発生のメカニズム解明に挑む
－震災 30 年シリーズ⑧【地震学】
- (6) ハード、ソフト両面からライフライン強靭化を
－震災 30 年シリーズ⑨【地震工学】

【6】受章

- (1) 令和 6 年秋の叙勲受章者を発表
- (2) 佐野晋平教授が「第 67 回日経・経済図書文化賞」を受賞
- (3) 藤澤学長が令和 6 年度兵庫県科学賞受賞者に選ばれました
- (4) 第 3 回学生ビジネスプランコンテスト O-BUCs で神戸大学起業部の SkinNotes が理事長賞（グランプリ）を受賞

【7】イベント等情報

- (1) イベント情報

【1】トピックス

(1) 第 18 回神戸大学ホームカミングデイを開催

第 18 回神戸大学ホームカミングデイを 10 月 26 日に開催しました。

開催前は天候を心配していましたが、雨に降られることなく、午前に全学式典、ランチパーティーを挟み、午後は留学生ホームカミングデイを始め、各学部企画を実施し、オンライン参加の方も含め、卒業生や地域の方、学生、教職員等延べ約 2 千人の方に参加いただきました。

オープニングセレモニー

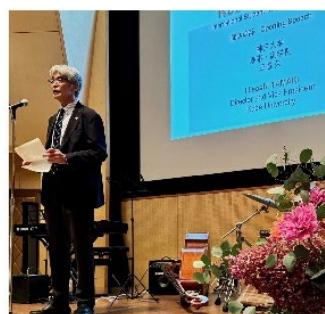


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241111-66227/>)

(2) 第 21 回留学生ホームカミングデイを開催

10 月 26 日、第 21 回留学生ホームカミングデイが六甲ホールを会場とし開催されました。司会は、神戸大学修了留学生のヘリニヤン・アンドレイ・マリヤンさん(人文学研究科 2022 年修了)と在学留学生バルジンニヤム・ハジドツェツェクさん(経営学部)の 2 人が務め、バイリンガル(日・英)で行われました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241106-66210/>)

(3) 国際交流パーティー『ONE KOBE FAMILY』を開催

10月26日、国際交流パーティー『ONE KOBE FAMILY』が百年記念館（六甲ホール）ホワイエで開催されました。藤澤正人神戸大学長の提案により初めての試みとして開催した国際交流パーティーは、国と地域、世代を超え、現役学生、修了・卒業生、外国人留学生、海外同窓会など、「神戸大学」に関わる様々な人の参加により『ONE KOBE FAMILY』の新たな交流を促進する目的で開催しました。留学生ホームカミングデイと同日開催もあり、当日は予想をはるかに超える300名近い参加者がありました。

司会は、神戸大学修了留学生のヘリニヤン・アンドレイ・マリヤンさん（人文研究科 2022年修了）と在学留学生バルジンニヤム・ハジドツェツエクさん（経営学部）の2人が務め、バイリンガル（日・英）で行われました。藤澤学長の挨拶では、今後の神戸大学のグローバル化についての考えが述べられ、『ONE KOBE FAMILY』がその一助となればという言葉で開会されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241115-66250/>)

(4) 神戸大学クラブ講演会のご報告

11月7日、楠公会館において神戸大学クラブ（KUC）講演会を開催、経済経営研究所特命講師小代薰氏（2013年工学部工学研究科修了）が、「観光資源開発の現場から～布引遊園地」をテーマとして講演されました。

新幹線新神戸駅から北へ歩いて約15分のところに、平安貴族も遊んだ布引の滝がある。その一帯が明治時代に「布引遊園地」として整備され、「雄滝茶屋」が現在も営業している。この「おんたき茶屋」が、神戸の山遊び文化を世界に発信するシンボル的存在になると考え、神戸市の歴史遺産認定制度

に申請し2023年に採択され、ふるさと納税制度を活用し、保存改修を進めようとしていることなどについて講演されました。

当日は、凌霜会、六篠会、文窓会、KTC、くさの会の卒業生が17名参加しました。

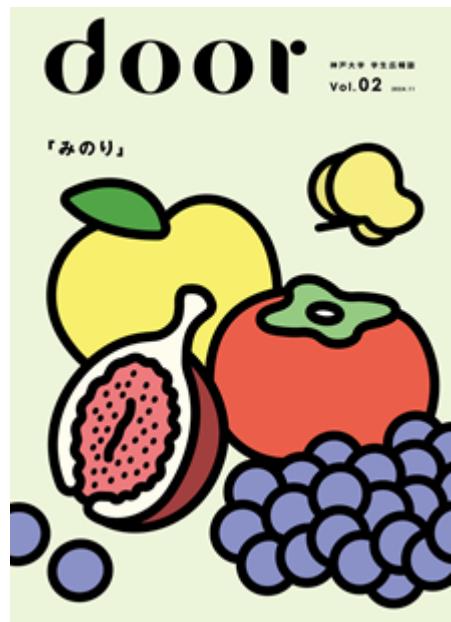


(5) 神戸大学 学生広報誌『door』Vol.02 を発行

神戸大学 学生広報誌『door』Vol.02 を発行しました。今号のテーマは「みのり」です。

本サイトでも Web パンフレットを公開していますので、是非ご覧ください。

『door』というタイトルは、開けば新しいなにかに出会える、入り口のような存在となれるように、という思いを込めて名付けました。そして、神戸の「戸」でもあります。

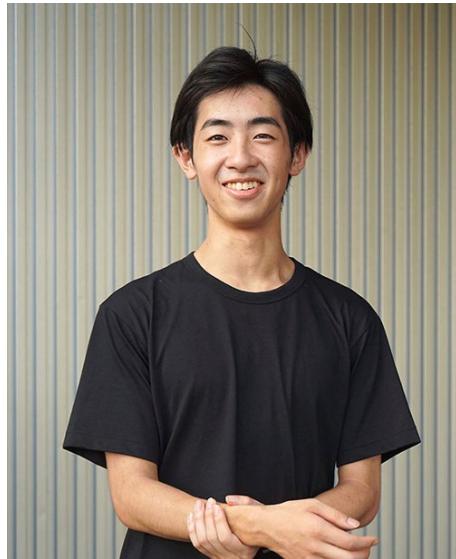


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241106-66200/>)

(6) 壱井達也さん、フィギュア GP3位、初の表彰台

11月8日から10日にかけて東京・国立代々木競技場で行われたフィギュアスケートのグランプリ（GP）シリーズ第4戦「NHK杯」において、国際人間科学部4年の壱井達也さんが、自己最高の3位に入り、GPシリーズ初の表彰台に上りました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20231114-5929/>)

【2】お知らせ

(1) 第3回日印大学等フォーラムに参加

10月19日、インド、ニューデリー市内のThe Grand New Delhiにおいて「第3回日印大学等フォーラム」が開催され、神戸大学から玉置久理事・国際連携推進機構長、富永圭介分子フォトサイエンス研究センター教授が出席しました。今回のフォーラムでは「日印頭脳循環の促進とその人材の活用」をテーマに、日印双方の大学長等が一堂に会し、両国大学間の連携拡大に向けた懇談や、共通の課題等について議論しました。日本側からは43機関、インド側からは36機関の参加がありました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241101-66203/>)

(2) 医学研究科からレモネードスタンド活動を通じた寄附に感謝状を贈呈

神戸大学大学院医学研究科は10月24日、神戸市立中央小学校の生徒4名に、レモネードスタンド活動を通じた寄附に対する感謝状を贈呈しました。

神戸大学大学院医学研究科小児科学分野造血幹細胞医療創成学部門（宮西研究室）では、造血幹細胞による基礎研究を加速するため、2024年5月から7月までクラウドファンディングプロジェクト『造血幹細胞研究 | 新しい骨髄移植技術開発で子どもたちに“治る未来”を』を実施しました。

神戸市立中央小学校の児童4名と保護者による支援グループ「kobesmileblue」が、本プロジェクトの趣旨に賛同を示し地元商店街で神戸の海をイメージしたオリジナル商品を販売するなどの活動を行い、活動による収益の一部を医学研究科に寄附いただいたことに対し、感謝状を贈呈することとしたものです。

感謝状贈呈式は神戸市立中央小学校で行われ、造血幹細胞医療創成学部門の宮西正憲特命教授から児童4名に感謝状が贈呈されました。



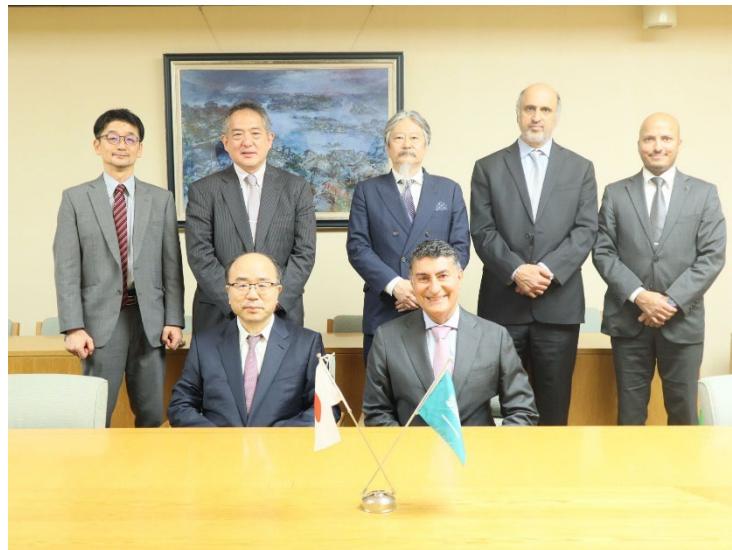
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241029-66190/>)

(3) 駐日サウジアラビア王国大使一行が訪問

11月1日、ガーズィー・ファイサル・エス・ビンザグル駐日サウジアラビア王国大使が、本学の藤澤正人学長を訪問しました。

懇談には、ファイサル国王イスラーム研究センターよりアブダッラー・ハミダッディーン研究部長とムスリム世界連盟よりメレー・アナス・ムハンマド日本支部長、神戸大学より梅屋潔神戸大学大学院国際文化学研究科長と中村覚大学院国際文化学研究科教授が同席しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241107-66217/>)

(4) 神戸大学×関西電力 SDGs 連続講座 2024 「ゼロカーボン社会の実現にむけて
—エネルギーの今と未来を考える」第2回大飯発電所の現地見学を開催

関西電力株式会社との共同企画として実施している神戸大学学術研究推進
機構 SDGs 推進室 SDGs 連続講座の第2回は、11月4日、同社大飯発電所
(福井県おおい町)での現地見学を行い、23名が参加しました。大飯発電所
1、2号機の原子炉核用容器は、1970年代に当時世界最新鋭の方式で設計さ
れたものですが、東日本大震災後の新規制基準施行を受けて2018年に廃炉の
決定がなされました。約30年かけて解体・撤去するための廃止措置工事が進
められており、現在は
3、4号機のみが稼働
しています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241111-66228/>)

(5) 神戸医療産業都市一般公開を開催

神戸大学デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構統合研究拠点は、11月2日にポートアイランド地区で開催された神戸医療産業都市機構主催の「神戸医療産業都市一般公開」に参画団体として参加しました。神戸大学企画として「神戸大学がつくるミライのかたち」と題した講演会や神戸大学クイズラリーなどを実施しました。

当日はあいにくの天気となりましたが、神戸市内ののみならず、市外、そして県外からも約560人の方々が参加されました。

神戸大学企画の講演会「神戸大学がつくるミライのかたち」では、「ミライをつくる、ここから始まる。神戸大学がつくるミライはあなたの未来につながるのか?」をテーマとして、微生物を使ったものづくりと新しい医療機器の開発について発表し、約40人の方々が参加されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241111-66232/>)

(6) Forking 株式会社と神戸大学による「スポットワークにおける個人の成長やエンゲージメント向上を目的としたゲーミフィケーション等の有用性」に関する産学連携プロジェクトが始動

Forking 株式会社と神戸大学大学院国際文化学研究科の村尾元教授は、Forking 株式会社がサービス提供する食に特化したスキマバイトアプリに関して「スポットワークにおける個人の成長やエンゲージメント向上を目的としたゲーミフィケーション等の有用性」に関する産学連携プロジェクトを、2024年11月より株式会社神戸大学イノベーションの協力により開始いたします。



○詳細は、こちらをご覧ください。
(<https://kobe-u-innov.jp/news/1507/>)

(7) 「第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト」 最終選考会を開催

神戸大学数理・データサイエンスセンターは、神戸大学における高大連携の取り組みとして「第4回中学生・高校生データサイエンスコンテスト」の最終選考会を年10月26日に開催しました。

このコンテストでは、「神戸みらい博士育成道場」と連携し、道場の受講生である児童・生徒23名が、7名の神戸大学の学生のメンターとともに聴講し、データサイエンスにおける論理的思考の体験を共有しました。

コンテストには、全国から69チーム267名の中高生が参加し、最終選考会には8チーム22名が参加、プレゼンテーションと質疑応答を経て、洛星高等学校「23-4」が最優秀賞に選出され、優秀賞2チーム、中学生優秀賞1チームとともに表彰状と楯が授与されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241118-66257/>)

(8) 令和 6 年度神戸大学高度専門研修「大学経営人材育成セミナー」を開催

9月27日、10月7日、10月23日、11月11日の4日間にわたり、令和6年度神戸大学高度専門研修「大学経営人材育成セミナー」を開催しました。

本研修は、神戸大学の経営人材育成の基本方針に基づき、幹部職員として管理運営を担う人材を養成することを目的に、令和3年度から実施しているものです。

講義は、神戸大学 MBA プログラムでも教鞭をとる大学院経営学研究科の松尾貴巳教授、栗木契教授、鈴木竜太教授、服部泰宏教授を講師とし、部長・課長級の事務系職員 26 名が受講しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241121-66269/>)

(9) 第 35 回山口誓子学術振興基金公開講演会を開催

9月21日、神戸大学百年記念館「六甲ホール」にて、第35回山口誓子学術振興基金公開講演会を開催し、学外から約60名の方が参加しました。

本講演は、俳人の故山口誓子・波津女ご夫妻から寄贈いただいた基金により、神戸大学が日本の俳句研究の拠点の一つとして運営しているものです。

今年は、『日本古書通信』編集長・俳句同人誌『蠶（たてがみ）』同人、樽見 博先生をお招きし、「早く逝きし俳人たち一人は何故詠おうとするのか」と題してご講演をいただきました。



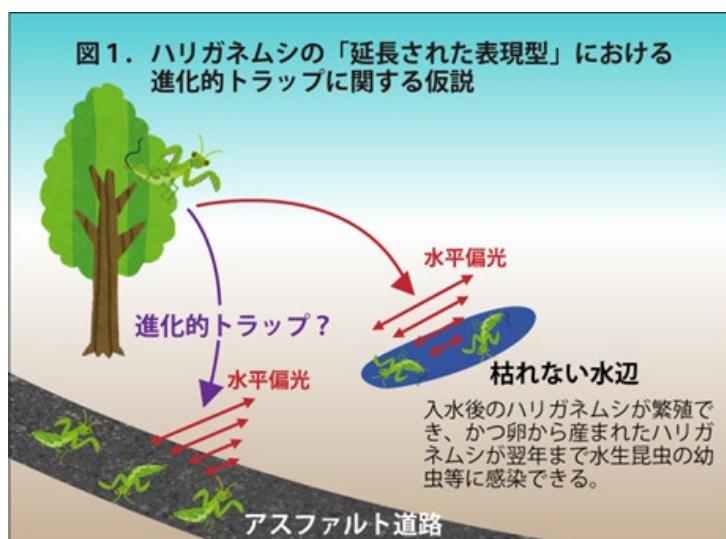
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241114-66248/>)

【3】研究ニュース

(1) 寄生虫の「延長された表現型」に対する進化的トラップの可能性

京都大学大学院理学研究科の澤田脩那修士課程学生（研究当時）、京都大学生態学研究センターの佐藤拓哉准教授、東京都立大学大学院都市環境科学研究所の佐藤臨特任研究員と大澤剛士准教授、元森林総合研究所の（故）松本和馬博士、国立台湾大学の Ming-Chung Chiu 助教、神戸大学大学院理学研究科の岡田龍一研究員と佐倉緑准教授からなる国際研究グループは、ハリガネムシに行動操作されたカマキリが、水平偏光を多く含む光を反射するアスファルト道路に引き寄せられ、その多くがハリガネムシとともに斃死している可能性を示しました。本研究成果は、生物多様性喪失の原因の一つである「進化的トラップ」が、宿主の環境応答を介して共生生物にも生じることを示す世界でも初めての研究成果です。

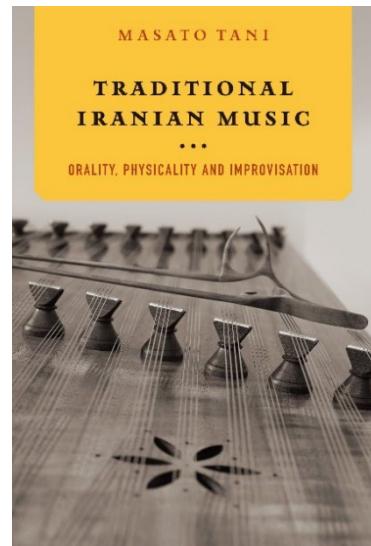


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241108-66211/>)

(2) 即興演奏とは本当に即興なのか？

即興演奏とは、本当に「即興」なのでしょうか？一見その場で「自由」に演じられているように思える即興演奏に、実は様々な言語化されていない「ルール」が存在していること、そしてそれらが必ずしも「制約」のような否定的なニュアンスを持っているわけではなく、むしろ文化による「自由」という言葉の意味の幅広さを示唆していることなどを、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の谷正人准教授が明らかにしました。

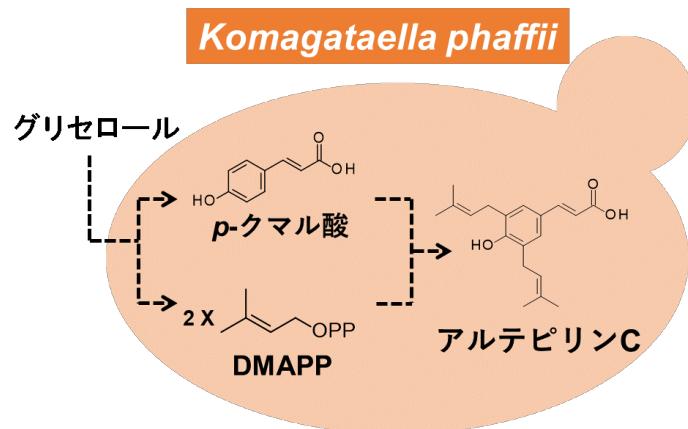


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241111-66225/>)

(3) プロポリス主成分の微生物生産における世界最高値を10倍以上更新

神戸大学先端バイオ工学研究センターの蓮沼誠久教授、番場崇弘特命助教らと、京都大学生存圏研究所の矢崎一史教授、棟方涼介助教らの研究グループは、ヒトの健康に高い薬理活性を示すアルテピリンCの高生産に成功しました。アルテピリンCは養蜂製品プロポリスの主要活性成分として知られる植物二次代謝産物であり、植物由来遺伝子を酵母に導入する合成生物学的アプローチにより、従来を10倍以上上回る世界最高濃度で生産することができました。今後、薬用植物由来の様々な有用化合物の高生産に発展していくことが期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241112-66183/>)

(4) 海面上昇対策としての南極ジオエンジニアリング：そのガバナンス上のリスクを解明

気候変動対策が遅々として進まない中、南極氷床の融解による地球の海面上昇が予測され、世界中の沿岸地域に住む人々の生活や経済活動に多大な悪影響を及ぼしうるとされます。最近、南極氷床融解を工学的手法で物理的に遅らせる技術＝南極ジオエンジニアリング＝が提唱され、その科学的・技術的有効性や資金的可能性を検討する論文が多く発表されています。今回の研究は、こうした議論に、国際政治学と国際法学の立場から、仮にこの技術が南極で実施されるならば、南極条約に基づく国際ガバナンス上の重大なリスクになると論じています。

南極ジオエンジニアリングで現在最も有力に主張されているのが、2024年1月のネイチャー誌でも紹介された、西南極氷床の手前の海底に長さ80km、高さ100mの「カーテン」を設置する構想です。この研究は、このような巨大インフラを南極に設置することに伴う国際ガバナンス上のリスクを、南極地域を「国際的な不和の舞台にしない」とする南極条約の目的に照らして考察しています。

この研究成果は、神戸大学極域協力研究センター長で国際法を専門とする柴田明穂教授と、ドイツ・フランクフルト平和研究所で国際政治学を専門とするパトリック・フラム主任研究員との共著で、11月18日にイギリスの王立国際問題研究所(チャタムハウス)の機関誌『International Affairs』に、ポリシー・ペーパーとして発表されました。ポリシー・ペーパーは、現下の国際的な課題・問題について、精確な実証分析とあり得る解決策を提示する内容の研究成果を迅速に公表することによって、国際的な政策議論に学術的なインプットを行うものであり、発表後には世界的な反響が期待されます。



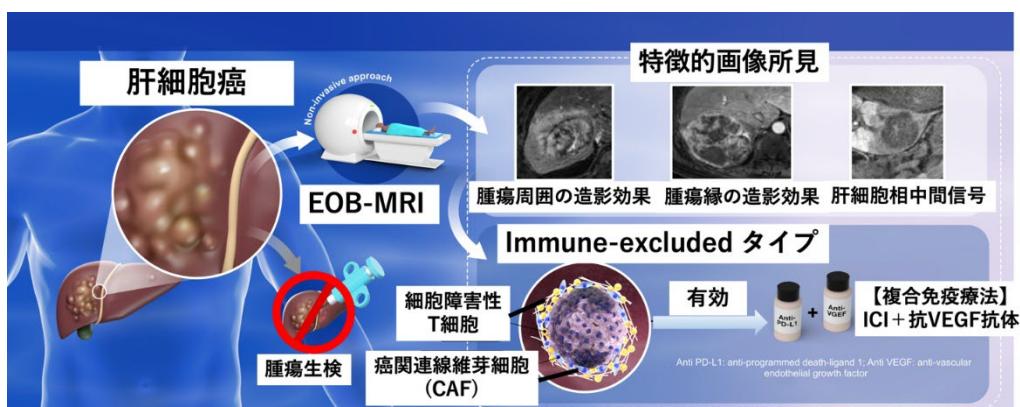
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241118-66244/>)

(5) MRI 画像で肝細胞癌内の免疫環境の予測が可能

神戸大学大学院医学研究科放射線医学分野の上嶋英介助教、祖父江慶太郎准教授、村上卓道教授らの研究グループは、肝細胞癌内部の免疫環境が予測できる MRI 画像所見を発見しました。

肝細胞癌に対する複合免疫治療は腫瘍内部の免疫環境に大きく影響されるため、治療効果が十分ではありませんでした。従来、肝細胞癌の免疫環境の予測は困難であったため、治療を行なって効果が乏しければ別の治療法を行うしかなく、薬物療法の治療効果予測のためのバイオマーカーの開発が急務となっていました。本研究では、「肝細胞癌術前患者の EOB-MRI 画像所見」と「切除された肝細胞癌検体の腫瘍免疫微小環境」の対比を行うことで、腫瘍内の免疫微小環境を空間的に分類し、MRI 画像所見との関連を解析しました。その結果、3 つの特徴的な画像所見である「腫瘍周囲の造影効果」「腫瘍縁の造影効果」「肝細胞相中間信号」が特殊な腫瘍免疫型である Immune-excluded phenotype と関連していることが分かりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241120-66219/>)

(6) 株式会社ジャパンディスプレイと共同開発、新医療機器「SOLTIMO-M」を発表

カーブジエン株式会社は、株式会社ジャパンディスプレイと共同開発した医療機器「微生物感受性分析装置 SOLTIMO-M CB100（以下、SOLTIMO-M）」の発売を開始することを発表いたします。

本製品は固形培地上の透過光強度を経時的に測定する技術を応用し、微細な増殖をリアルタイムでモニタリングすることで、細菌感染症の早期発見と診断の迅速化に貢献します。SOLTIMO-M は、大手企業とスタートアップの両社の強みを活かしたオープンイノベーションにより、医療とテクノロジーの融合から生まれました。

また、本製品は神戸大学都市安全研究センター／医学部附属病院検査部の大路剛准教授との産学連携による共同研究において開発および実証実験を行ってまいりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241120-66267/>)

(7) ゲノム解析により褐藻の進化の歴史を明らかに

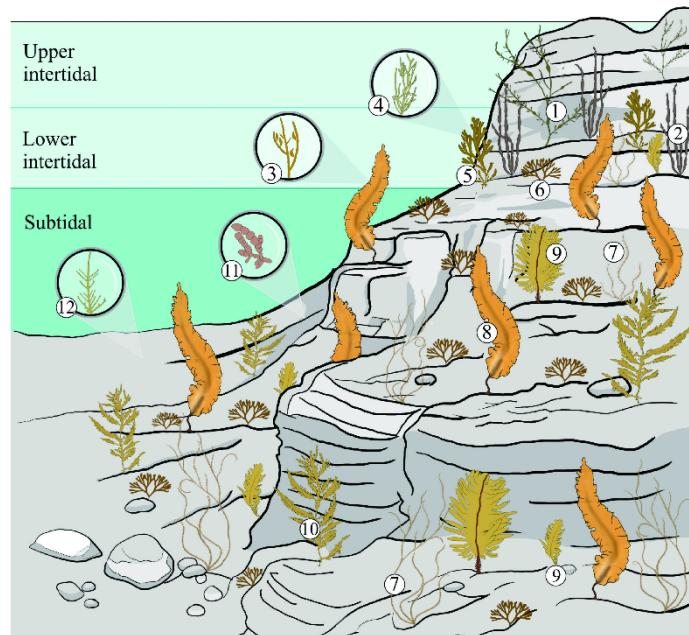
－海の森をつくる褐藻はいかにして誕生したか－

フランス国立科学研究中心およびフランス国立科学研究院が主導する国際共同研究グループは、沿岸生態系の要となる褐藻の包括的なゲノム解読プロジェクト「Phaeoexplorer」により、約 60 の新しい全ゲノムの解読に成功しました。プロジェクトには、神戸大学内海域教育研究センターの川井浩史特命教授が企画段階から関わり、Christophe VIEIRA 研究員・秋田晋吾研究員（研究当時在籍）とともに神戸大学海藻類系統株コレクション（KU-MACC）で保有する系統株を提供して、各系統群の生物学的特徴と系統関係の解析などを担当しました。

褐藻は海洋生態系の構築や地球規模のバイオマス生産において重要な役割を果たし、さまざまな産業用途にも使用されていますが、その進化の歴史はまだ十分に解明されていません。この研究により、約 4 億 5 千万年前に褐藻が出現した際に急速なゲノム進化の時期があったことが特定され、褐藻が沿

岸環境に適応するために獲得した様々なゲノムの革新が明らかになりました。これには、藻類の細胞壁に柔軟性を与えて海流に耐えられるようにする物質の合成や、外敵から身を守ったり岩礁への強固な付着を可能にする物質の代謝系の獲得などが含まれます。こうした形質の獲得により、褐藻は多様な水温環境や季節変化に適応し、潮間帯という過酷な環境でも生存することが可能になり、陸上の緑色植物に匹敵する繁栄を遂げたと考えられます。

- ① *Ascophyllum nodosum*
- ② *Scytosiphon promiscuus*
- ③ *Ectocarpus siliculosus*
- ④ *Pylaiella littoralis*
- ⑤ *Fucus serratus*
- ⑥ *Dictyota dichotoma*
- ⑦ *Chordaria linearis*
- ⑧ *Saccharina latissima*
- ⑨ *Undaria pinnatifida*
- ⑩ *Desmarestia herbacea*
- ⑪ *Schizocladia ischiensis*
- ⑫ *Discosporangium mesarthrocarpum*



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241121-66261/>)

(8) 冬季の常緑針葉樹の光合成調節に関わるタンパク質を発見

北海道大学低温科学研究所のヨウ・シゴウ氏、高林厚史助教、田中亮一教授、神戸大学大学院理学研究科の秋本誠志教授、基礎生物学研究所環境光生物学研究部門の横野牧生准教授、森林総合研究所の北尾光俊主任研究員らの研究グループは、冬季の常緑針葉樹ではELIPとよばれる葉緑体タンパク質が大量に蓄積し、光エネルギーを熱として放散する過程に関わることを明らかにしました。

冬季の寒冷圏の常緑樹は吸収した光のエネルギーの大半を熱として放散しており、実質的に光合成を行っていないことは知られていましたが、その仕組みは明らかではありませんでした。研究グループは常緑針葉樹の一種であるイチイを研究材料とし、ピコ秒単位（注：ピコ秒は1秒の1兆分の1の時間）での蛍光の測定、一年を通しての遺伝子の発現、光合成タンパク質及び光合成色素の量の測定、タンパク質の構造予測などの解析を複合的に組み合

わせることによって、ELIP がこの仕組みにおいて重要であることを示しました。これらの結果をもとに、冬季の寒冷圏の常緑樹は、集光タンパク質が吸収した ELIP を介して光エネルギーを熱に変換し、放散することで、活性酸素の生成を抑制し、葉緑体のタンパク質を保護することで葉の緑色を維持する、という新たな仮説を提唱しました。この仮説は 2006 年にアメリカで提唱された仮説をさらに発展させたものです。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241122-66274/>)

【4】 インタビュー

(1) 英語スピーチコンテスト 日本一の称号

神戸大学には、各専門分野を学びながら、部活動の中で力を発揮し全国的な成果を上げる学生も多い。ESS (English Speaking Society) 部で部長を務めた神戸大学国際人間科学部発達コミュニケーション学科 3 年、川崎弘貴さん (20) は、8 月に横浜市で行われた「第 44 回全日本英語会連盟杯争奪学生英語弁論大会」に出場し、栄えある日本一に輝きました。神戸大学の学生が、同大会で優勝したのは初めてだといいます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241107-66197/>)

(2) 女子応援団長 1年間のフィナーレ

創部 64 年の長い歴史を持つ応援団総部・応援団において、女子が団長を通して務めたのは、まだ 2 人しかいないといいます。第 64 代団長の河村愛菜さん（文学部 4 年）は 2024 年 1 月から、重責を担い、団を率いて応援活動を重ねてきました。12 月の引退ステージとなる「翔鷹祭（しょうようさい）」に向けて、静かに闘志を燃やします。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241114-66220/>)

【5】フィーチャー

(1) 次世代ハザードマップで災害対応の社会変革を

—震災 30 年シリーズ④【防災情報技術】

防災対策の精緻化、効率化を図るためにには、災害による被害をより正確に予測し、分かりやすく伝えることが求められます。そこで期待されているのが、計算科学（シミュレーション）と情報技術の活用です。神戸大学都市安全研究センターの大石哲教授（社会基盤、水工学）は「災害対応の社会変革」を掲げ、防災デジタルツインの構築に取り組んでいます。防災デジタルツインによって何が可能になるのか、防災対策にどのように貢献できるのか。大石教授に話を聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241108-66194/>)

(2) 災害による人口減少を見越した復興のあり方を探る

－震災 30 年シリーズ⑤【空間経済学】

空間経済学は経済学の中でも比較的新しい学問領域で、「人と企業の相互作用による経済活動の空間構造を俯瞰的に分析する学問」とされます。その空間経済学を専門とし、東日本大震災の被災地に 10 年間通い続けて研究に当ってきた神戸大学経済経営研究所の濱口伸明教授（グローバル経済、経済統合）に、空間経済学の視点からとらえた災害復興のあり方について話を聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241112-66195/>)

(3) 子どもたちの命を守る防災教育のあり方とは

－震災30年シリーズ⑥【防災教育】

神戸大学大学院国際協力研究科の桜井愛子教授は、もともと国際協力の領域を専門にしながら、その後防災教育へと研究領域を広げてきたユニークな経歴を持ちます。常に教育現場に軸足を置きながら、「子どもたちの命を預かる」防災教育のあり方を探求し、現場での実践・支援に携わってきました。その桜井教授に、阪神・淡路大震災、東日本大震災を経た防災教育の変化、それをどのように世界に発信していきたいかを聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241115-66198/>)

(4) 地域の歴史を掘り起こし、災害文化のアップデートを

－震災30年シリーズ⑦【歴史学】

「関西には地震は来ない」。阪神・淡路大震災発生前は、多くの人がそう思い込んでいました。しかし、歴史を紐解けば、たいていの地域には災害の爪痕が記録として残っています。神戸もそうです。神戸大学地域連携推進本部地域連携教育部門長の松下正和特命准教授は、そうした地域に残る石碑や歴史資料をもとに、過去の災害を住民にわかりやすく伝える活動を行っていま

す。地域の記録に学ぶことから始まる災害文化の伝承について、松下特命准教授に聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241119-66199/>)

(5) 巨大地震発生のメカニズム解明に挑む

－震災30年シリーズ⑧【地震学】

阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）は、政府が全国に地震観測網を整備するきっかけとなりました。世界でも類を見ない高度な観測体制によって、地下で起きている変化を瞬時に把握できるようになります。そこから得られたデータを解析し、巨大地震発生のメカニズムの解明に挑んでいるのが、都市安全研究センターの吉岡祥一教授（地震学）です。プレート境界で起こる「スロースリップ」と地下の温度構造に着目して地震発生の謎に迫る神戸大学都市安全研究センターの吉岡教授に話を聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241122-66208/>)

(6) ハード、ソフト両面からライフライン強靭化を

—震災 30 年シリーズ⑨【地震工学】

災害時、水道、電気、ガス、通信などのライフライン網が被害を受けると、市民生活に大きな影響を及ぼします。強靭なライフラインを構築するためには、災害が地中の管路などに及ぼす影響を分析し、それを事前の設計に生かす対策が欠かせません。神戸大学大学院工学研究科の鍬田泰子教授（ライフライン地震工学）は、施設の強靭化の重要性に加え、被害が出ることを踏まえた対策、社会全体の意識醸成の必要性も指摘しています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241126-66221/>)

【6】受章

(1) 令和 6 年秋の叙勲受章者を発表

11月3日付で、令和6年秋の叙勲受章者が発表されました。神戸大学の受章者は、以下の方々です。

瑞宝中綬章

安永 正昭（神戸大学名誉教授：法学研究科）

薄井 洋基（神戸大学名誉教授：工学研究科）

榎原 茂樹（神戸大学名誉教授：経営学研究科）

山村 公明（神戸大学名誉教授：理学研究科）

高橋 真一（神戸大学名誉教授：経済学研究科）

瑞宝双光章

坂口 裕（元神戸大学事務局長）

(2) 佐野晋平教授が「第 67 回日経・経済図書文化賞」を受賞

神戸大学大学院経済学研究科の佐野晋平教授の『教育投資の経済学』(日本経済新聞出版)が第 67 回日経・経済図書文化賞を受賞しました。この賞は、経済および経営・会計分野の学問、知識の向上に貢献すると共に、その一般普及・応用に寄与することを目的としており、過去 1 年間に刊行された経済・経営に関する図書の中から優れた作品に対して、日本経済新聞社と日本経済研究センターより授与されるものです。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241107-66216/>)

(3) 藤澤学長が令和 6 年度兵庫県科学賞受賞者に選ばれました

この度、令和 6 年度兵庫県科学賞において、藤澤正人学長が受賞者に選ばれました。

兵庫県では、県民文化の高揚、科学技術の向上、スポーツの発展及び明るい地域社会づくりに顕著な貢献をした個人又は団体に対し、文化賞、科学賞、スポーツ賞及び社会賞を贈り表彰しています。

科学賞では、研究の成果が科学技術の向上に著しく寄与すると認められた研究者を表彰しています。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241127-66283/>)

(4) 第 3 回学生ビジネスプランコンテスト O-BUCs で神戸大学起業部の SkinNotes が理事長賞（グランプリ）を受賞

11 月 12 日に開催された「第 3 回学生ビジネスプランコンテスト O-BUCs(オブックス)」において、神戸大学起業部の SkinNotes (代表：竹内悠人さん、農学部 4 年) が「アトピー性皮膚炎小学生向け痒みを抑える緑茶染めシャツ開発事業」を発表し、理事長賞（グランプリ）を受賞しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/1114.html>)

【7】イベント等情報

(1) イベント情報

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/events/>)

★神戸大学がラジオ関西で情報発信 「神戸大学☆夢ラボ」

神戸大学が持つ「知」を広く情報発信し、各専門分野の研究者が研究のきっかけや研究成果の社会への影響などをリレー形式で伝えています。

放送は毎週日曜日の午前8時45分から15分間、進行役は神戸大学出身のラジオ関西パーソナリティ一天宮 遥さんが務めています。

以下のサイトから、放送当初に遡ってご視聴いただけます。

<https://jocr.jp/programsite/yumelabo/>

★「KU-Net」からのお知らせ

「神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)」をリニューアルし公開しております。

従来からの、「OB・OG 訪問」の機能に加え、「卒業生からのメッセージ」や「在学生の今」の掲載をしております。また、卒業生等が開催するイベントへの参加申し込み機能も追加しました。

詳しくは、神戸大学コミュニティネットワークホームページ
(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/alumni-net/>)でお知らせしています。

また、KU-Net の説明動画を YouTube にアップしておりますので併せてご覧ください。

(<https://youtu.be/ZqHCVW0VsU>)

是非ご登録ください。

★神戸大学校友会ホームページ

<https://www.ku-alumni.kobe-u.ac.jp/>

■支部所属の会員の皆様にもお知らせください

神戸大学校友会事務局

657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学企画部卒業生・基金課内

TEL 078-803-5042 FAX 078-803-5024

E-mail: plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp